



春日小だより

令和7年1月8日
練馬区立春日小学校
校長 後藤 京子
学校通信 1月号

令和7年の年頭にあって

校長 後藤 京子

新年おめでとうございます。旧年中は、本校の教育活動に温かいご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございました。本年が、子どもたちにとって、そして皆様にとりまして素晴らしい一年となりますよう心からお祈り申し上げます。

さて、今年、巳年です。小学校では、平成25年に生まれた子どもたちが年男、年女ということになります。2025年は、干支と、十二支の組み合わせで「乙巳」と呼ばれる年にあたり、「乙」は十干の2番目に位置し、「木」の性質をもつことから、「新たな成長の芽吹き」を象徴しているようです。「巳」は、十二支の6番目で、ヘビが脱皮を繰り返すことから、「新しく生まれてくる」「将来・未来がある」といった意味をもち、生命力や再生、変化と進化の象徴とされているそうです。60年に一度の「乙巳」は、若いエネルギーが発展していく特別な年とされています。これまでの努力や準備が実を結び始め勢いを増していく年、新しいことに挑戦をする年にしたいものです。



3学期の始業式に子どもたちにこんな話をしました。

新しい年のはじまりにあたり、「今年は何々をがんばろう」と、決意をした人も多いと思います。また、家族それぞれの決意を伝え合ったご家庭もあったのではないのでしょうか。「〇〇をがんばろう」と思ったとき、また、「□□をはじめよう」と思ったとき、さあ、いつから始めますか。「今日は時間がないから明日から」、そしていざ明日になると、「やっぱり、来週から」など、ずるずると先延ばしにするようなことはありませんか。大切なことは、忙しいことや、事情などがあるかもしれませんが、「やろう」「始めよう」と思ったことは、すぐに始めることだと思います。始めてみると自分なりの方法が自然に生まれてきます。始めようとする強い意思と、最初の一步を踏み出す勇気をもつことが肝心です。校内のある方が、「今年は何話を覚えようと思っています。」と私に声をかけてくれました。その方は、どこで学べるか、早速調べ、ご自身のライフワークに合った講座を探しています。今年は何デフリンピックの年でもあります。その方の興味や挑戦が実を結び、少しでも様々な人とのふれあいのきっかけになることを願っています。

また、始めてみたものの、思い描いていたような結果がでないことがあるかもしれません。そんな時、どうしますか。「無駄だったな」とあきらめてしまいますか。でも結果が出るまで時間がかかることもあります。違う方法で挑戦したらうまくいくかもしれません。その繰り返しが人生の中で大きな経験となって新たな挑戦をする際の自信につながり、乗り越える勇気になると考えます。

この話を聞いて子どもたちが自分の目標を教えてくれるのを楽しみにしています。

もし、目の前のお子さんが失敗を繰り返し、自信を失ったり、もう一度挑戦をする勇気がもてなかつたりしたときにはぜひ、「以前と比べればこんなに成長していますよ」と、これからも期待をしていることを伝えていただければと思います。この言葉がけで、子どもの成長を促します。

「新しいことに挑戦しよう」と一步を踏み出す場を学校では数多くつくり、教職員が一丸となって教育活動に取り組んでまいります。ご協力をお願いいたします。